

12月号

第371号

いっしん

平成27年(2015年)

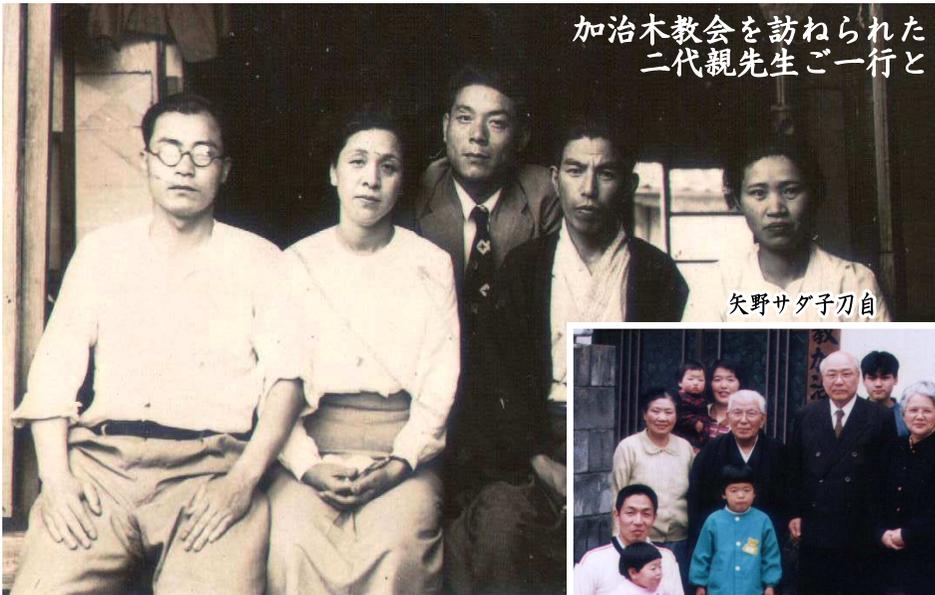
発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市
加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-622895 / FAX 020-4665-5653
Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

限りなき
神の恵みに
生かされる
ことを忘れず
日ごと夜ごとに

甘木親教会
初代教会長
安武松太郎師御教

甘木親教会 二代教会長 安武文雄大人 20年祭 12月23日(祝)
甘木親教会 初代教会長 安武松太郎大人 65年祭 平成28年 2月17日(水)
加治木教会 布教65年記念大祭 平成28年 5月29日(日)

昭和三十一年(布教五年祭)



加治木教会を訪ねられた
二代親先生ご一行と

矢野サダ子 自

平成五年
↓



安武文雄親先生 藤枝奥様 矢野政美大人

甘木親教会 二代教会長 安武文雄大人二十年祭

をお迎えするにあたり

今月二十三日には、甘木親教会二代教会長 安武文雄大人二十年祭をお迎えいたします。

加治木教会の生神金光大神御大祭は十二月六日で、御大祭前信行期間(十一月二十四日～三十日)の研修テキストに、この時季でありますから『心神』第二集(安武文雄大人教話集)を使わせていただきました。

内容に収められています二代親先生(安武文雄大人)の昭和十六年から三十六年までの若い頃のご教話であります。毎朝拝読させていただき、お祖父様に当たられる初代安武松太郎親先生の願いとされるところを真剣に真実に受け継ぎ伝えていかねばならないというお気持ち、ひしひしと伝わってきます。

お父様を五才のときに亡くされ、妹様は十八才、お母様は二十才のときに亡くされ、甘えることのできるご両親ご兄妹は皆、神様がお取り上げになられ、過酷な境遇の中に身を置かれたのです。

(次ページ)
111111

安武文雄大人二十年祭…P1~3
前田由紀子氏 書籍を出版…P7

安武秀信師ご教話…P4~6
行事予定…P8

しかし、そのような中で、お母様の願いであられた「一日も早くお祖父様の後を継ぐことのできる御用をさせていたただかねば」ということ一筋のあゆみを進められ、祖父母に当たられる初代親先生ご夫妻のもとで、教会御用を身近でなされ、ご教話を真剣にお聴きになられたことが、にじみ出ているご内容ばかりでありました。

深い悲しみを

信仰の向上へと

そうして二代親先生は、生涯そのお気持ちをゆるがせにせずへ前に進むとも、後ろに退いてはならない」といふご姿勢で信心を進められ御用に当たっておられます。

『安武松太郎大人教話集』（第二集）には、

「…非常な悲しみに出会いますが、情の上からは悲しみましても、そこから信仰の向上がはかられるのであります。どんな苦境に立ちましてもへこ神慮はここにあり」といふ気になれるのであります」

とありますように、二代親先生は

わが身の不幸を不幸とされず、ご信心の眼（まなこ）を開かれて、ご信心と親孝行に真剣に邁進しておられます。

さらに、昭和二十五年に、

「…親先生（初代安武松太郎 郎師のこと） 四十七年の長い間の不断の御取次、寝食を忘れてのご教導をいかに受け来ったか、ただ自己の生活安寧・幸福、家の繁栄・平和をのみ乞い祈みて、教え伝えんとされし、また分かつてくれと願われし本筋のものを悟り、いいただき得し者幾人かある。ここに我々は、天地金乃神様のご大願、金光様、親先生のご祈念に添い奉るべく、『マト』の己になり、生活の全面に『マト』を行じ抜かねばならぬことを痛感する。』（『心神』第二集 七十頁）

と、初代が亡くなられる前年に述べられ、ご信心の本筋が願うおかげや幸せだけにあるのではないことを力強く示されておられます。

さらに、その十年ほどのちも、

「…親先生（初代安武松太郎 郎師のこと） の願うておられる、その思いなり、願いなりを、自分自身、正しく受けさせてもらう

ことのできるようにおかけいただきねば、ほんとうに信心がすすむ、成長するということは難しいのではないかと思えます。せつかく、この尊い、ありがたい道にご縁をいただいておっても、とおりの一辺な、ただ困った時、神様にお願いしておかけをいただく、ただ単に、自分自身が幸せになる、おかけをいただくための信心というようなことで、終わってしまうのではないかと思えます。」

（『心神』第二集 八十五頁）

と、願うおかげや幸せだけに終止しては、ほんとうの信心ではないことをハッキリと訴えられています。

『心神』第二集から

見えてくるもの

『心神』第二集（安武文雄大人教話集）を拜読させていただきますと、世間的な眼で見れば二代親先生はお若いときから不幸の連続でありであつたのですが、信心の眼でその根底にあるご神慮や神様の深い願いに眼を向けられへ甘木親教会の信奉者はじめ出社教会の信奉者に至るまで

信心の道を迷わず進め導かねばならぬ」といふ、固い決意をもって御用を受け継がれて行かれたことがわかるとともに、その雄姿が眼に浮かぶ思いが致します。

また、ここからわからせてもらいますことは、初代親先生が、矢野クラ刀自（加治木教会前教会長矢野政美大人母堂）に伝えられた「親神様の御立場に立った信心」が、初代・二代の親先生方が生涯をかけられて教え伝えんとされた、ご信心の根幹とも言えることです。

矢野クラ刀自も
到達され現わされた
『マコト』の信心

物質的に、経済的に恵まれた時代となった今、私たちは「ただ自己の生活安寧・幸福、家の繁栄・平和をのみ乞い祈みて、教え伝えんとされし、また分かってくれと願われし本筋のものを悟り、いただき得し者」ということがわかり、そうなるうと努める人も極めて少ないのが実態です。

矢野クラ刀自のように、真実の親

神様の願いやお働きをわからせていただきへわが子も一人は、親神様のお喜びになられる、お道の御用にと立たせてもらわねば、そして真実、親神様にお道に尽くすことができねば」といふ信心にならせていただくことが、お道の信心の『マコト』のあり方でありましよう。

親神様の「ご神慮」や「大願」に心の眼を向け、だれにも起り得る、深い悲しみや苦しみ・不幸せや難儀を、生きるエネルギー、人を助ける原動力、幸せな世界を生み出す糧とされ続けてこられた「信心」のあゆみにシッカリと心の眼を開いて見直し、共に信心を進め、自分のものにしてもらいたいと願うものであります。

そのような気持ちと信心姿勢で、甘木親教会二代教会長 安武文雄大人一二十年祭をお迎えし、共に参拝のおかげを蒙らせていただきたく願うところであります。

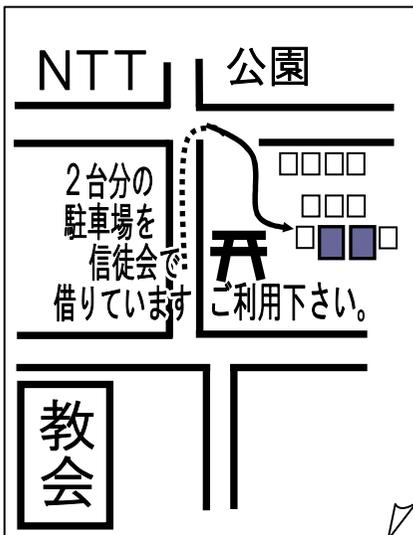
『心神』第二集（安武文雄大人講話集）は、十二月も、毎朝御祈念後に拝読させていただく予定です。

あしあと

加治木教会行事記録

11月

- 1 (日) 月例祭・御用奉仕 10時半
大重家霊祭 15時
- 3 (祝) 甘木親教会参拝 感話御用 (教会長)
- 8 (日) 枕崎教会記念大祭 11時
- 9 (月) 斎掃御用 10時
- 10 (火) ●生霊光 月例祭 10時半
●大神様 併せて 立教記念祭・新穀感謝祭
- 14 (土) 多良木教会御大祭 11時
- 15 (日) 鹿児島教会御大祭 11時
- 19 (木) 連合会執行部会 10時半
- 20 (金) 斎掃御用 10時
- 21 (土) 大口教会御大祭 12時
- 22 (日) ●月例祭・共励会 13時半
- 23 (祝) 西鹿児島教会御大祭 11時
- 26 (木) 竜笛練習
- 30 (月) 斎掃御用 10時



加治木教会
天地金乃神御大祭ご教話 平成二十七年
五月三十一日

「ここまでのお礼」と 「ここからの願い」

⑥ …… ①～⑥

講師 大口教会長
安武秀信 先生



そして、これから大事なものが、そう
いうおかげを頂く自分が、これからと
うすればよいか、それがここからの願
いです。

今の運動（「神人あいよあけよの生活
運動」）で言えば、ここまでのお礼とい
うのは、一行目、二行目、三行目です。
「御取次を願い頂き／神のおかげにめ

だめ」ということです。取次ぎを日々
頂く、あるいは月例祭たびに頂く、話
しを頂く、ことによって神のおかげに
毎日毎日目覚めさせていただく、自覚
を深める、それが三行目にあります「お
礼と喜びの生活」の内容を深めていく、
即ち喜びが大きくなっていく、「ここま
でのお礼」の内容となる一行目から三
行目、これを繰り返す、繰り返す、こ
れをけいこして行くことです。

そして四行目、そういうおかげを頂
いた自分がどういう生き方をすればい
いのか、徳を積み、永遠の助かりに向
かうのが、この四行目の生き方ですね、
恩を知った生き方、恩に報いる生き方
です。

雑餉教会の義父、山崎先生が、まだ
信者時代甘木の教会にお参りすると、
御結界の前でいつも二・三十人お話し
を聴いておられるので、その中に混じ
って聴いておられると、そのとき甘木
の初代が話されるには「あるときある
人が、弁当の握り飯を腰に下げて、便
所に入ると、どうしたはずみか、握り
飯が肥壺に落ちてしまったときにその
人が、手間が省けたと言ったそうなの…」、
握り飯は、人間に食べられてやがて大

便になって肥壺に入る、その手間が省
けたという意味なのです。直通で肥壺
に入ったということです。

それを聴かれて山崎先生は「そういう
う人生はいかなく」と思われたのです。

握り飯は、人に食べられて、血肉と
なって、人としての働きをさせて、そ
してやがて、役目が終わって肥壺に入
って行くのが握り飯の役目であると…。
何も役にも立たないで肥壺に入って
も何にもならない。

人間、オギャーと生まれて、何にも
お役に立てないで棺桶に入っても何に
もならないということです。

「そういう人生はいけない」だから、
甘木の初代は御理解を通してこの「願
い」というものを自分の中に持たせて
下さったという言い方をなさっておら
れました。

「人間いかに生きるか」という、そ
れが生まれて来ねばならないというこ
とです。

☆

そこで、矢野クワ様ですよね。そこ
に見事に甘木の初代の取次があります。
もう命が無い、医者がさじを投げた、
二キ口の道を一生懸命人の手助けを頂

いて甘木のお広前にお参りされて、生き別れに参られた、今生の別れでございませと別れを告げる、そのときに、甘木の初代が大変厳しいお取次をなさってあります。

生き別れに来たとは何ごとか、えらい信心の帆を下げたなと、皆さんのご承知のとおりです。

そして、諄々と三十三年間の天地のお恵み、そういうものを話されて、徳川の四天王の一人、本田平八郎忠勝の話をされ「死にともなあ ああ死にともなあ 死にともなあ ご恩を受けし君を思へば」という歌を詠んだ。

本田平八郎が、主君徳川家康から頂いたご恩と、天地の親神様のあなたが頂いているご恩と、比べものになるかどうかです。

あなたは三十三年間、生かされ、しかも様々なおかけを頂いて、今日がある、あなたは死んでもよからうけれども、おかけ下さった神様はどうなるのか。

「じじいまでのお礼」の内容です。「じじいまでのお礼」といって何を踏まえて、じじいご理解されてあるのです。

そこで、矢野クラ様は、今までの信

心は一身一家の上のおかけを蒙りたいためだけの一心であった、いわば自己中心、親神様のお立場というものを考えたこともなかった、これからは、もう一度命を頂いて、親神様のご恩に報いる生き方をさせていたきたいと。

ここが、願いが生まれたということ、ここからの願いです。「ここからの願い」です。

見事に、甘木の初代の取次というものは「ここまでのお礼」ということと「ここからの願い」というものをシッカリとここで打ち込んでおられるのです。

それを頂いて矢野クラ様は、起死回生のおかけを蒙って行かれた。願いを持つということ、その願いを持ちますと、信心の姿勢がシヤンとします。

願いがないと、信心というものはあやふやになってくる。



それで、これも甘木の初代の頃のお話しであります、ある方が、メグリの象徴というものを神様が夢の中であなたにあげようと言われると、その人は、それが嫌で嫌でしようがないので「そんなものは要りません」と答えましたら、神様が「そんなら子どもに遺しておこう」と仰った。

先ほどの、桂先生の「前々のメグリ」ということですね。「お前が受けなければ、子どもに遺す以外にないな、それでは子どもに遺しておこう」と仰った。

それで、その方は目が覚められて、すぐ甘木の教会にお参りされて初代にお取次を頂かれ「親先生、どうい苦勞も厭いません、メグリが子孫に残りませんように」とお願いされたということ、です。

矢野クラ様もそうでしょう、願いたいものを持たれたわけです。

そういう願いを持ったら少々の苦勞でも越えて行けます。「この苦勞が、子孫が助かるもとだ、家族がもとだ」と思うことができれば…。

私の母もそのように、よう言っておりました「私の苦勞が、お前たちにメグリを遺さないのならば、苦勞のし甲

斐がある」と。

そういうことをよう言っておりますし
た。

二代親先生の奥様、亡くなられた孝
子親奥様は、私の母が病院に見舞いに
行ったときに、孝子親奥様もそういう
意味のことを仰ったそうです。

今自分がこうして膠原病という大変
な病気で苦しんでおるけれども、これ
が少しでもメグリののお取り払いになっ
て、子どもたちにメグリののお取り払い
になっていくのならば、し甲斐がある
と。

それが、ここからの願いなのです。
ですから、信心させていただくお互
いとしては、せめて、家族が助か
り、先祖が助かり、子孫が助かるため
なら、一苦労・二苦労はしよう、一修
行・二修行させてもらおうというくら
いの願いは持ちませんと、それを持っ
たならば、信心の姿勢がシャンとし
てきます。弛みもきません。

そういう願いがないから、いい加減
な信心になる。そういうことを思わせ
ていただくわけです。

今日は「ここまでのお礼」と「ここ
からの願い」というものが大事だとい

うことを中心にお話しをさせていただきました
きました。

これで終わらせていただきます。

(おわり)



ご霊神様のお立日

十二月

- 吉屋正憲 之霊神(2日)平成11年
- 本中野キン 之霊神(7日)昭和10年
- 大山キク 之霊神(7日)平成7年
- 小屋敷シゲ 之霊神(7日)平成8年
- 柳園市次郎 之霊神(8日)昭和25年
- 本中野重盛 之霊神(8日)昭和39年
- 大山叶人之霊神(14日)
- 徳永盛常 之霊神(18日)平成2年
- 大山スエケサ之霊神(24日)昭和51年
- 大山きよ子 之霊神(28日)昭和43年
- 吉屋キミ 之霊神(30日)平成22年
- 前田キミ之霊神 昭和43年



「先祖のご霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。
立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんして
お礼を申し上げます。
教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の
奉てんを準備しています。

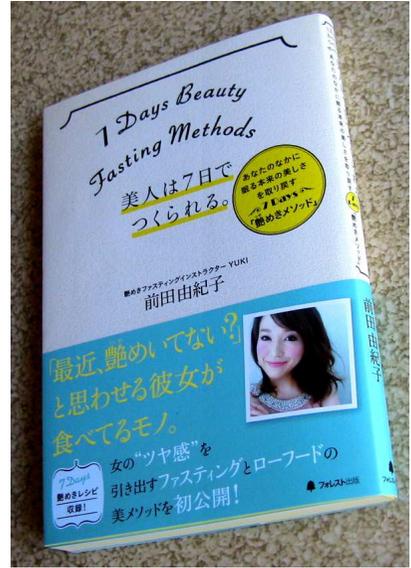


前田由紀子さんが、『美人は7日で作られる』

という、女性の健康的な美しさを引き出す、ファスティングとローフードについてのお話を本にされ、10月に出版されました。

下に、書籍の本人紹介文を転載させていただきます。

前田由紀子さんは、前田正人さん・和子さんの長女で、現在東京でご活躍中です。幼い頃からご両親に連れられて加治木教会に参拝され、曾お祖母さんの代からの熱心なご信心のご家族です。



艶めきファスティングインストラクター YUKI

前田由紀子

Yukiko Maeda

株式会社リーディングビューティー代表取締役
一般社団法人日本ファスティングインストラクターズ協会
代表理事

鹿児島市出身。高校卒業後、ラグジュアリーブランド業界で12年間働く。ストレスで心身のバランスを崩し、便秘や原因不明のじんましん、皮膚病やヘルニア、神経痛、生理不順、摂食障害、不眠症、自律神経失調症に悩まされ、病院と職場と家の往復だけの20代を過ごす。薬を飲まなくてもよい体になりたいと模索していた所、ローフードと出会い、さらにファスティングを実践する事で本来の自分らしい美と健康を取り戻す。自身の経験を元に女性の内面と外面を1週間で艶めかせる独自のファスティングプログラム“艶めきメソッド”を確立。自分のように悩んでいる女性を救いたいと、2012年2月からファスティングインストラクターとしての活動を開始。これまで3,000名以上の女性のファスティングカウンセリングを行う。ローフードの料理レッスン、



艶めきファスティングセミナーは東京を中心に大阪・名古屋・福岡など各地で開催、セミナーレッスン受講者は累計20,000名以上。

2014年に一般社団法人日本ファスティングインストラクターズ協会を設立。ファスティングインストラクター養成講座、ローフードインストラクター養成講座を開講。2015年、株式会社リーディングビューティーを設立。薬に頼らず、健康と美しさを望む全ての女性を対象に、ローフードの料理教室や資格講座、資格をビジネスに活かしたい女性向けのビジネス講座など、食育からビジネスまで一貫したカリキュラムを学べるのが特徴の大人の女性のためのスクール“LEADING BEAUTY SCHOOL”を東京・渋谷に開講。

十二月四日(木) 出発 午前七時半

甘木親教会

生神金光大神御大祭 参拝

十二月六日(日) 午前十一時

加治木教会

前日 御用奉仕

生神金光大神御大祭 奉行

講師

大口教会長
安武秀信先生

十二月二十三日(休)

甘木親教会

出発 午前七時半

安武文雄大人二十年祭 参拝

十二月三十日(水) 十三時半より

加治木教会

越年祭 奉行

越年祭、御礼・お願いの記入用紙を
ご記入の上、御結界にお届け下さい。

一月一日(祝) 正午より

加治木教会

元旦 祭 奉行

「二祭典・教話後、福引。」

教会行事

12月

- 1 (火) ●報徳月例祭 10時半
- 3 (木) 甘木親教会御大祭 第一日
- 4 (金) 甘木親教会御大祭 第二日
- 5 (土) 御用奉仕
- 6 (日) ●加治木教会御大祭 11時
- 9 (水) 斎掃御用 10時
- 10 (木) ●生神金光大神様 月例祭 10時半
- 13 (日) 御本部布教功労者報徳祭
- 17 (木) 連布教協議会鹿児島教会 10時半
- 19 (土) 斎掃御用 10時
- 20 (日) ●月例祭・共励会 13時半
- 23 (休) 甘木親教会 安武文雄大人二十年祭
- 29 (火) 斎掃御用 10時
- 30 (水) ●越年祭 13時半

1月

- 1 (祝) ●元旦祭 正午
- 3 (日) 甘木親教会年頭参拝
- 9 (土) 斎掃御用 10時
- 10 (日) ●生神金光大神様 月例祭 10時半
- 併せて 成人感謝祭
- 11 (祝) 少年少女会「饒開き」10時半
- 21 (土) 斎掃御用 10時半
- 22 (金) ●月例祭・共励会 13時半
- 24 (日) 連合会定期総会(鹿児島教会にて) 10時
- 31 (日) 斎掃御用 10時半

一月五日〜二月四日
寒中一斉信行

ご祈念・研修 午前五時二十分・午前十時
ご祈念のみ 午後四時・午後九時

加治木教会 バンド練習会
練習日 随時連絡します。
これからも練習会に参加して
みなでお役に立たせていた
だきましよう。